

F14 アンノット Annot

アンノットの岩場は南仏では非常にめずらしい砂岩の岩場である。雰囲気も森の中に小岩峰が点在しており日本的な感じがする。

岩質は石灰岩に近いタイプではなく、フォンテーヌブローの岩場とそっくりである。フォンテーヌブローに行かれた方なら解ると思うが、このタイプの岩はほとんどカチホールドがなくパーミングで登っている課題が多い。そんな岩なのでルートは長さになると当然ホールドは無いに等しい。そのため多くのルートは下から上までチッピングされている。チッピングが最も横行しているフランスであるが、ここは行き着くところまでいっている。多くのルートは何もないところの部分は大きなガバを掘り、核心部は自然の岩の形状を利用している。登っていて極端な違和感がないのはこのためだろう。

ここは易しいルートが充実していることもあって結構多くのクライマーで賑わっている。

だがチッピングのルートは登りたくない人は絶対に行かないほうが良い。

ポケットホールドが多く、その間刻めるホールドが少ないのでリーチ差がでる。またボルダー的なルートも多いので、指の筋を痛めやすい。この地の有名ルートとしてはピタマニア 6.14c があり、ヨーロッパの中でも有名になりつつある。ただし岩場は他の南仏の岩場からなかなか離れていて通いづらい。



ピタマニア(8C+/5.14C)の小山田大

ルート

岩場は大きく分けるとアプローチ5分のエリアと30分のエリアに分けられる。5分のエリアは比較的短く、20メートル以下のボルダーの様なルートが多い。しかし初心者から中級者向けのルートはここに集中していて、垂直やスラブもありトプロープも簡単にかけられる。

番手前のエリアはなかなか難しく、ピタマニア(8c+)もここにある。奥のエリアは対象的でも長く、持久力を試されるルートが多い。ただしほとんどが8台以上である。この岩場は他のポケット系のエリアと少し違って、ピュースの様子に1本指の浅いポケットしかない。どこかリーチ差がかなりでる。また指のけがには十分注意が必要である。

宿泊

私たちはニースから通つたので不明。N202 沿いに幾つかキャンプ場があった。

シーズン

春から秋。上のエリアは両サイドに岩場が接近していて日が当たりづらい。下のエリアはとても短いため、木々に覆われていて日が当たりづらい。雰囲気的には日本のじめじめした感じに似ている。雨が降ったら登れない。

ショッピング、トポ

アンノットは非常に小さな町なので、大きな町で買出した方がよい。商店はないに等しい。近く大きな町もない。本当に山の中である。トポはアンノットと題したのがアンノットの街のインフォメーションで売られている。ただし地図が付いていないトポはかなりわかりにくい。ルートの下にルート名が書いてあるのでそれを頼りに登るルートを探すという感じだ。

インフォメーションの人は岩場の多少のことは教えてくれる。

アプローチ

NICE および DIGNE からのどちらからも中間に位置する。N202 号をどちらからも1時間強走りANNOT に通じるN908 号に入る。町から右上に位置する鉄道駅に向かい、どんずまりに車を止める。駅の外れから線路をまたいで反対側に行くクライミングの看板がある。

トレールが右についているのでそれにしたがって歩く。下のエリアは5分でつく。上のエリアはさらに20分以上歩く。

99年6月 木村伸介 99年秋 内藤直也

